

善意銀行寄付

善意の寄付をありがとうございました

平成17年9月1日～平成17年11月30日（ ）内は寄付回数

金銭寄付(敬称略)

斉藤 武司／岩澤 夢鶴子(3)／平井 洵子(3)／小野 芳太郎／工藤 高之祐(3)／五神 嘉子／(社)鶴見法人会 青年部／西脇 和子／阿 佐 貞太郎(3)／小野 梅子／田辺 朝子／樋高 禮子／竹村 タカ／鳳氣至一広／(株)東芝／内田 八江子／土屋 きみ子／中村 国政／鶴見区仏教婦人会／ハーモニー音楽教室生徒一同・愛する会一同／貴田 米吉／ユニバーサル造船京浜労組横浜東部地区連合／おっさんネットワーク／メロディー松本／小野 岩雄／小野 輝子／東台小学校三代ふれあい光の子フェスティバル実行委員会／

小池 好江／股野 藍子／北村 俊一／白 容子／鶴見区女性団体連絡協議会・鶴見懇話会／横浜市交通局鶴見営業所／横浜鶴見西ロータリークラブ／(株)ニュートーヨー(2)／北寺尾ふれあい菜園／鶴見区地域ふれあい祭り実行委員会／(株)ナムコ／レッツダンス・ロイ／名取 福造／神奈川県厚生年金受給者協会鶴見分会／小高 光江／匿名

物品寄付

吉兆グループ(3)／(社)鶴見法人会／神奈川県宅建物取引業協会横浜鶴見支部／鶴見塗装協同組合／小山 勝巳

鶴見区社協より

◆おやこのひろば「そらまめ」ボランティア募集！

かわいい子どもたちから活力をもらって若返りましょう。生き生きしたい方、子どもが大好きな方募集中です。

○日時：火・木・金9:30～16:30のうち都合のよいとき

○内容：子どもの見守り等読み聞かせ・飾りつけ・おもちゃ作り等、得意なことを生かしていただくのも歓迎。率先してプログラムを提供するというより、親子が気持ちよく過ごすためのお手伝いです。

◆福祉総合相談

あなたのお困りごとについて、まずはご相談ください！相談は無料、秘密厳守、予約不要です。直接会場へ。

○相談内容：家族や子育ての悩み・土地や相続に関わること、多重債務してしまった、心の健康相談、医療費が高くて払えない等

○日時：1/17・24 2/14・28 3/14・28 (すべて火曜日) 13:00～16:00 (受付は15:30まで)

※弁護士相談は、希望者多数の場合は13:00に抽選6名。

※2/28は医療ソーシャルワーカーによる医療相談も受け付けます。

○場所：UNEXビル6階

◆子育てサポートシステム説明会

子育てをお手伝いして欲しい方、してくださる方が相互に登録し、お互いの信頼関係をもとに援助活動を行うシステムです。登録ご希望の方は、説明会にご出席ください。お子さんも一緒にご参加できます。

○日時：1/25 2/22 3/29 (すべて水曜日)14:00～15:00

○申込：前日までに、氏名・住所・TEL・利用／提供会員どちらをご希望かを電話又はFAXにて。
○場所：UNEXビル5F・6F

その他

◆給食調理補助ボランティア募集(調理補助、献立立案)

○日時：毎週水・木曜日(週2回) 10:00～13:00

○場所：鶴見区障害者地域活動ホームもとみや

○その他：交通費支給・車通勤OK

○連絡先：活動ホームもとみや(鶴見区元宮2-4-78 ☎585-3664 担当：細川)

◆鶴見区知的障害児者親の会「ひよこ会」保育ボランティア募集

発達に遅れがある入園前の子どもたちと楽しく遊んでくれる方を募集しています。

○日時：毎週月・水曜日(週1でも可) 9:40～13:00

○場所：地域活動ホームもとみや・神奈川県競輪組合

○内容：公園の散歩や外遊びの付添い

○連絡先：鶴見区ボランティアセンター(区社協内) ☎504-5625

◆鶴見区知的障害児余暇活動グループ『ゼリービーンズ』ボランティア募集

子どもたちと一緒にいろんなところに行ってみませんか？元気な子どもたちをサポートしてくれる方募集中！

○日時：第3日曜日 9:30～15:00

○内容：知的障害児の余暇活動のサポート

○募集年齢：17歳以上30歳以下

○問合：鶴見区ボランティアセンター(区社協内) ☎504-5625

◆作業所自主製品の販売

区内の地域作業所等で作成している自主製品の販売会を行います。日用品やお菓子など、まごころのこもった製品をぜひご覧ください。

○日時：1/27 2/24 3/10 (全て金曜日) 10:00～15:00

○場所：区役所1階ロビー

※特に記載がないものは参加費無料
※地域によっては配布時期が前後するため、すでに応募が終了している場合もございますが、ご容赦ください。

◆編集後記 企業や団体の福祉貢献特集第2弾、いかがでしたか？「うちの商店街ではこんなユニークな取り組みをしている」「我が社ではこんな工夫で寄付を集めている」といった情報がありましたら、ぜひお寄せください。(K)

◆バスネット1,000円分を5名様にプレゼント！

「福祉つるみ」のご感想をお寄せください。抽選でバスネットをプレゼントします。応募は、はがき・FAX・Eメールで、①〒・住所・氏名・TEL・性別・年齢②福祉つるみを手に入れた場所③今号の中でよかった記事④取り上げてほしいテーマ⑤感想を記入の上、2月28日(必着)までに下記「アンケート係」へ。

第49号当選者 岸本様 桑原様 佐藤様 酒井様 佐野様(五十音順・敬称略) クイズの答えは「⑤獅子ヶ谷横溝屋敷」でした。※バスネットのデザインは写真と異なる場合があります。

『福祉つるみ』を定期購読してみませんか

定期購読を希望される方は、80円切手を4枚と必要事項(〒・住所・氏名・電話番号)を記入の上、封書で下記住所の「定期購読」係までお申し込みください。〒230-0051 鶴見区鶴見中央4-32-1 UNEXビル5F 鶴見区社会福祉協議会

発行：社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会

〒230-0051 鶴見区鶴見中央4-32-1 UNEXビル5階 TEL.045-504-5619 FAX.045-504-5616 e-mail: yturumi-shakyo@guitar.ocn.ne.jp

企画編集：株式会社オープン 印刷：ツルミ印刷株式会社 ※録音・点字版をご希望の方はお問い合わせください。

●「福祉つるみ」の発行費は、共同募金配分金を活用しています。●「福祉つるみ」では広告を募集しております。

次号(第51号)は、平成18年3月1日発行予定です。特集…次号予定「善意銀行って？」他(予定)

福祉つるみ

横浜市鶴見区社会福祉協議会

vol.

<http://www.yturumi-shakyo.jp/>

●平成18年1月1日発行

考えるより、やってみるのが一番

ふれあい運動会に参加するたび「どんな社会でも一人では生きていけないと改めて思います。特に健常者と身障者が家庭の中でともに生きる、その苦勞と難しさを強く感じる」という旭硝子の遠藤章さんと大谷五十八さん。障害のある弟を見守る兄の姿、わが子の姿に目を細める親、運動会に集まる地域の人たちのいきいきとした表情や日ごろの大変さを、ボランティアを通じて目の当たりにする貴重な体験ができることも。「毎年、若手を必ず連れてきます。仲間内で声をかけ参加を誘う」が、個人的な都合などがあって思うように人数が集まりません。それでも、ボランティアを通じてグッとくる何かをつぎの若手に伝えていくのも我々のこれからの使命と語っています。



CONTENTS

企業のふくし貢献…東芝・JFE・イトーヨーカドー・総持寺・旭硝子
表紙写真：旭硝子京浜工場(有志)のボランティアのみなさん 第23回鶴見区ふれあい運動会(2005年11月3日・鶴見小学校校庭)で

もっといろいろなことができそう 手応え十分の2日間

◆イトーヨーカドー 鶴見店◆～障害者作業所等による自主製品の販売

「作業所自主製品をご覧ください～い!」。スタッフの声が、広い店内に響きました。

昨年10月3～4日、区内の障害者地域作業所・活動ホーム等で構成される「鶴っこ」部会による自主製品の販売会が、イトーヨーカドー鶴見店の協力を得て開催されました。大型店舗での出店はもちろん初めてのこと。多くのお客様に商品を手に取っていただき、作業所のことも知っていただくことができました。

今回ご担当いただいた藤本販売促進部長は、「企業としても、障害のあるお客様でも気軽にお買い物ができるお店作りを考えており、さらに地域のいろいろな人が交流できる場となることを目指しています」と、会社の理念を話してくださいました。実際に、イトーヨーカドーでは「福祉ショップ テルベ」を数店舗で開設し、福祉施設で作られた製品販売の場として地域に提供しています。

そんな理念と結びついて実現した今回の販売会。「お客様には、手作りの製品を手にとったときのぬくもりや、こんなにより商品を作っているんだという驚きを感じていただけたと思います」さらに、「PRもお手伝いしたい」とのご厚意で、店内アナウンスも度々流れ、スタッフも大喜び。「もっと色々なことができると思う。お手伝いできれば」との言葉には頼もしさと力強さがあふれていました。「地域に出店する以上、地域交流はあたりまえ、という考えを持たないと。今後でもできるだけのことをしたいし、協力も惜しみませんよ」と語る藤本部長。今後の地域交流には期待大です!



心をこめて作った商品を販売

ボランティアは特別なことじゃない

◆東芝労組京浜支部 障害児地域訓練会 ひよこ会のプール教室◆

プールの前で全員集合!



東芝労組京浜支部の秋元さんが、障害者地域訓練会「ひよこ会」で週1回のプール教室のボランティアを始めしたのは3年前。最初、子どもたちに「誰?」という目で見られていたのが、「通いつめているうちに変わるよ」という先輩の言葉どおり、段々と仲間として認められてきたと感じます。中には浮きをつけてもらうのが「秋元さんじゃなくちゃイヤ」と言う子も。この教室に来る障害児は10名足らず。そこには毎週3名くらいの東芝労組の中の青年政策部員を主とした組合員が入れ替わりで参加します。「ボランティアは男性の手が足りないので、東芝の皆さんの男手はとても貴重」と、ひよこ会のメンバーは話します。

青年政策部では、ボランティア活動への積極参加を柱の一つとして、実に様々な活動をしています。ただし、本業を休んでの活動となるので、もちろん職場の理解は必要。東芝には、「ワイドプラン休暇」という、自己啓発や社会貢献活動への参加などを目的として、有給休暇の一部を積み立てることの出来る制度があります。

「ボランティアは決して違った世界じゃなく特別なことではない」と秋元さん。活動中には時間がとても有効に流れていくと感ぜられるそうです。関わるメンバーは少しずつ変わっても、これからも組織の中でしっかりと受け継がれていくことでしょう。「住居が違って鶴見区で働きながら、この地域の活動に少しでも貢献できることは嬉しいことです」



青年政策部の広報誌 ボランティア特集号が組まれるほど活動は多彩

【特集】企業・団体のふくし貢献

和尚さんもレッツ・ボランティア!

◆大本山總持寺◆～ボーイスカウトと一緒に車いす体験

大本山總持寺にトムソーヤ島! ? と思ったらそこはボーイスカウトの活動拠点でした。鶴見のまちが見渡せる眺めのよい高台にツリーハウスまであります。ボーイスカウト第3団は、現存する団としては日本で2番目に古い歴史を持ち、このすばらしい環境の中で活動しています。

昨年10月にボーイスカウトが車いす研修を企画したときに「僧侶の方もぜひ」と声をかけたそうです。和尚さんたちもお寺のお客様を介助をする機会があるとのことで、たくさん参加されました。当日はあいにくの大雨。それでもなにしろ広いお寺の中、建物の中だけでも体験す

るには十分です。階段を下りるときには、子どもたちと和尚さんと一緒に車いすを持ちながら体験しました。

体験が終わると、ボーイスカウト特製のとん汁をいただきながら、今回ご協力いただいた中野老師や修行僧の方のお話をうかがうことに。曹洞宗ではボランティア活動の推進に取り組むことが決まり、總持寺でも、昨年度は地域の福祉に役立てようと●鉢で集めた浄財を区社協へ寄付してくださいました。“和尚さん”というどうしても敷居の高いように感じますが、皆さんとても気さくな方。「これからも積極的にボランティアに取り組んでいきたい」、「何かあればどんどん声をかけてください」と熱く語ってくれました。



みんなで協力して



礼儀正しく説明を聞かせる

会社では味わえない何か、を体験

◆JFEスチール(株) 東日本製鉄所 京浜会◆～もとみや青年学級

11月末の快晴の日曜日、障害のある青年たちと一緒にみかん狩りを楽しむ男性たちの姿がありました。JFEスチール(株)の社員の皆さんです。これは「青年学級」という催しで、障害のある青年たちが、ボランティアと一緒に毎月様々な体験をしています。JFEによる「もとみや青年学級」への協力が始まったのは平成5年。この頃『地球環境』と『社会貢献』への積極的な取組」という会社の方針が打ち出されました。「京浜会」という所内の横断的な自主組織があり、安全対策や品質管理などに取り組むほか、ボランティア活動へも乗り出します。

京浜会は約200名の構成員の中から、毎月4～5名を青年学級へ派遣。とりまとめ役6年目となる鈴木さんは「家族を含めた、できるだけ多くの人に体験してもらいたい」と心を配りながらも、組織的な派遣のため「個人で来ている人に比べ、純然たるボランティアではないかも…」とつ

ぶやきます。しかし、人手不足に苦しむ青年学級にとって何より確かな支えであることは間違いありません。参加した社員の方々は「障害者は自分とそんなに変わらない」ことに気づいたり、「メンバーが次に会ったときに顔を覚えていてくれた」ことを喜んだり世の中のバリアフリーについても、実際に車いすを押すことで、単なる知識から実感へと変わります。「回を重ねるごとにどんどんよいボランティアになっていく」と話すのは青年学級のスタッフ。さまざまな人との出会いの中、会社だけでは味わえない魅力がボランティア活動にはあるのでしょうか。



頼もしいボランティアです!

鶴見区ボランティアセンター(ボラセン)は、企業・団体の社会貢献を応援します!

ボランティアは、個人でも、性別や年齢に関わりなく誰にでもできるもの。しかし、企業や団体だからこそできる社会貢献もあります。ボラセンで活躍するボランティアは、主婦・定年後男性・学生が3大構成員。体力や気力にあふれた勤労世代には活躍の場がたくさんあるはずですが、実際には仕事や家庭で精一杯の世代でもあります。そんなとき、会社が背中を押してくれることは大きな力となるはず。また、その組織の本業や専門技術を活かした活動も、決して個人では真似できません。

今回の取材の中で、何人かの方が「普段の仕事では出会えない障害者やその家族、地域の方など様々な人と出会えた」と話されていたのが印象的でした。ボランティアとは双方向の営み。活動の先に、きっと地域から得られるものがあることでしょう。みなさんも仲間に入りませんか?

こんなことをお手伝いします!

●寄付 寄付金をお預かりし、区内の当事者団体やボランティア団体、施設などへ配分したり、区社協事業に役立てます。

物品についても、必要とする団体との橋渡しをします。

●活動 地域で行われているボランティア活動をご紹介・調整します。

●研修 各種体験学習・当事者の講演などについて、講師を紹介するなどの相談をお受けいたします。体験用の機材(車いす・高齢者疑似体験等)の貸出しも行っています。